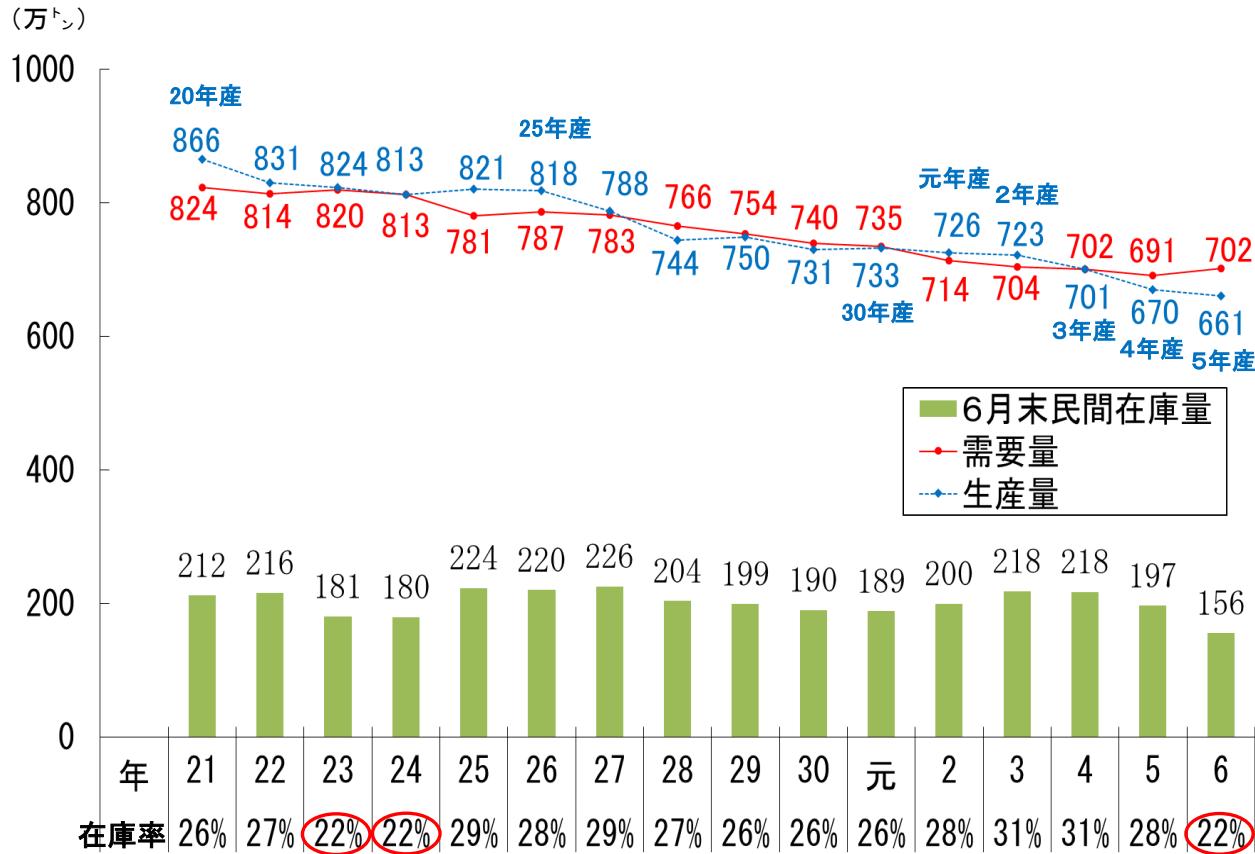


(1) 最近の米の需給動向(需要量、生産量、民間在庫)

○最近の米の需給は、令和5年産米の需要が堅調に推移したことから、令和6年6月末の在庫量は近年では低い水準となっている。

○一方で、在庫率(在庫量/需要量)で見れば平成23年、24年と同水準であり、全体需給としてはひっ迫している状況にはなく、十分な在庫量が確保されている。既に新米の出回りも始まっているが、引き続き、出荷、在庫等の状況を把握。



(参考)

需要が堅調であること(昨年より11万トンの需要増)の要因は以下のとおり。

- ①食料品全体の価格の上昇が続く中、米の価格が相対的に上昇が緩やか
- ②インバウンド等の人流の増加
- ③高温・渇水の影響により、精米歩留まりが低下

(※上記の需要量・生産量は玄米ベース。精米歩留まりの低下は玄米需要量の増加につながる。)

<消費者物価指数の推移>

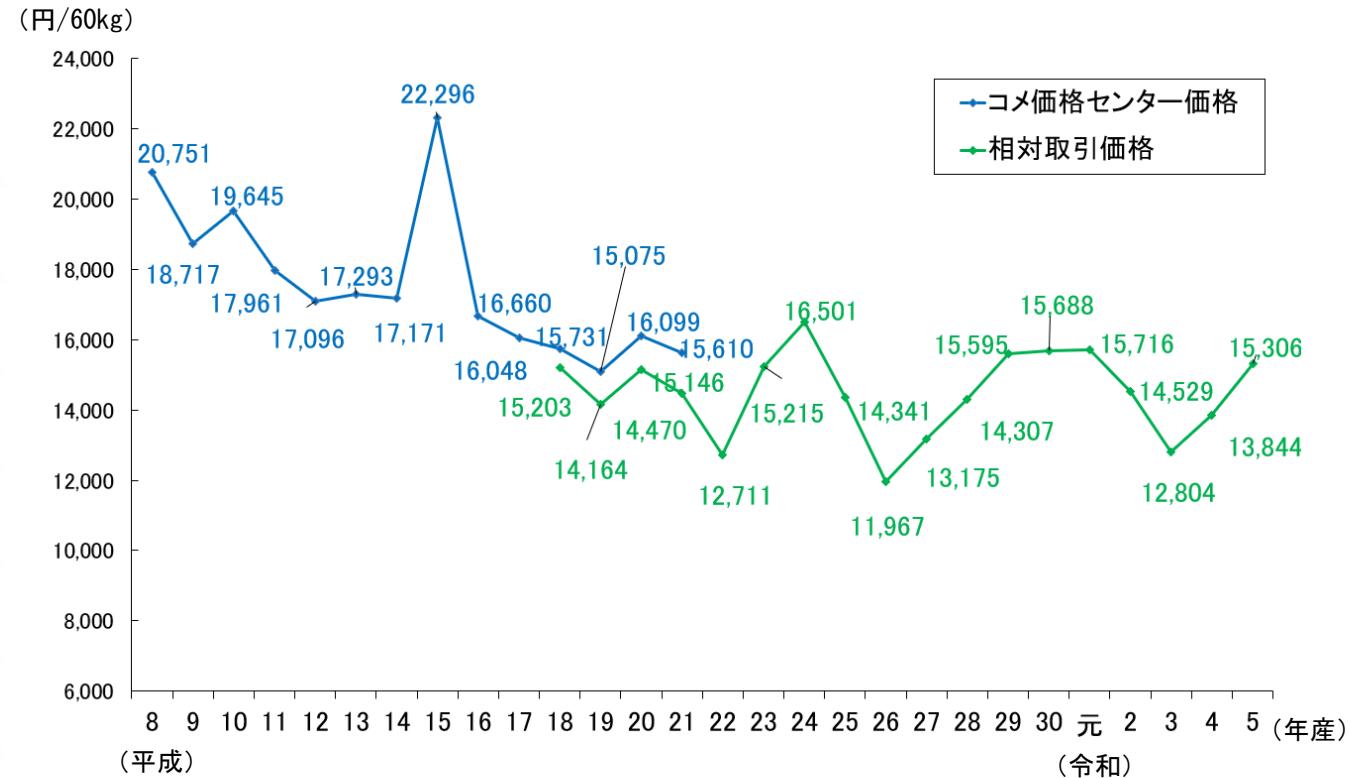
(令和2年=100、指数)

	R2年	3年	4年	5年	6年 (1~7月)
食料	100.0	100.0	104.5	112.9	116.1
米類	100.0	96.8	92.6	96.1	103.9
パン	100.0	99.5	109.6	118.4	121.2
麺類	100.0	99.7	107.1	118.9	121.8

(2) 米の価格の推移

○堅調な需要を背景に令和5年産米の相対取引価格は、前年産比で10%程度上昇。

○なお、過去からの価格と比べると、近年は比較的低い水準で推移。



(3) 子ども食堂等への政府備蓄米の無償交付

○令和2年度から、ごはん食を提供する子ども食堂や、食材とともに米の提供を行う子ども宅食に対し、食育支援の一環として政府備蓄米を無償交付。

【取組の現状】

- ・交付申請の受付は、全国で10か所(本省、各地方農政局等9か所)。
- ・交付申請の受付は、年4回実施(4月頃、7月頃、10月頃、1月頃)。

<交付数量及び件数の年度別推移>

令和2年度	3年度	4年度	5年度
17トン (213件)	97トン (554件)	168トン (666件)	140トン (486件)

※令和5年度は、新型コロナウイルスの影響が緩和され、学校給食が全面的に再開したこと等により、対前年で減少。



(写真) 食品配付風景